

# 親の夕食の思い出?

夕食といったら、ナポリタンと緑色のサクラソバ入りのメロンソーダを注文することに決めていました。ナポリタン以外注文したことはありません。粉チーズはレストランでしか食べられなかったので、食べるのにかけて幸せを感じていました。いまでも大好物です。  
(三年 母)

子供達が小さい頃、座席でガチャポンができたり、新幹線が運んで来る回転寿司屋さんによく行っていました。食べ過ぎでも無いのに何故かいつも具合を悪くしていました。理由は流れる皿をじっと見ていて、目が回ったようです。  
(二年 母)

毎日親から与えられたお弁当。それから夕食をきつかけに、友達との夕食を楽しみながら開拓していく姿。こうやって親離れ、子離れしていくんですよ。子供らの成長見守って、楽しみましょう。  
(二年 母)

社会人になって一年目、近所のステーキハウスに家族で行きました。初泊ナスが出たので、お会計はそっと私が済ませました。母は非常に恐縮して、貯金しときなさいだの、無駄遣いすることないだのと言っていましたが、父は何も言いませんでした。社会人として、私を認めてくれたのかなと感じた時でした。  
(一年 母)

## 特集を終えて

▼葵高生は思っていたほど友達などと一緒に夕食はしていないようです。時間も無いしお金もかかるということでしょう。コンビニの利用も増えてきたと思います。またほとんど行かないという人も比較的多いようです。

▼夕食は多くの親にとつては懐かしい思い出。何か特別な時に行ける場所。今の子供たちにとつて外食は特別ではないのかもしれない。

▼でも、友達とあるいは親も子もみんなまで食べておしゃべりするのは楽しい大切な時間。その時間は特別です。

▼親としては塩分や脂肪分の取りすぎ、野菜不足に気をつけたいところです。安心安全な食材や地産地消にも関心を持ちたい。

▼子供には子供の付き合いもあるけれど、遅くなったり頻繁に行くようになったりすることなく友人との適切な付き合い方を学んでほしい。

▼親もたまには手抜きして食べに行きたいと思う時もあるけど、特別どこかに行かなくても家でゆっくり家族と楽しみたいというのもありです。親子で夕食について考えるいい機会になれば。

▼今回はいろいろお店に行けて楽しかった。どのお店の方も親切にしてくれて、喜んで写真を撮らせてくれました。感謝です。

## 大学の講義を体験



### オールイングリッシュで

十月十九日(金)、一学年行事として会津大学に行ってきました。語学研究センター上級特認教授ジェレミー・パーキンズ先生に「Phonetics in English and Japanese (英語と日本語における音声学)」という題目で、英語による講義を行っていただきました。ジェレミー先生は言語学、その中でも特に音声学を専門に研究している先生です。世界中のあらゆる言語の音声を文字で表す際に使うIPA(国際音声記号)についてや、日本語と英語の音の違いについてなど、概論的な内容を説明してくださいました。途中で英語の音声に関するクイズ



も出題され、高校生にとつても楽しく、分かりやすい内容でした。大きな階段教室で、全て英語で展開される講義を受けながら、生徒たちは大学での学びがどのようなものなのかについて各々イメージを膨らませることができたのではないかと思います。学問や今後の自らの進路に対する意欲が深まり、とても充実した一日になりました。

今年の一年生が三年生の時には、大学入試の制度が大きく変わります。また、受験時だけではなく進学後も、英語で書かれた文献を読んだり、今回のように外国人の先生の授業を受けたりする機会があるため、生徒たちにとつてますます英語が重要になってきます。今後も意欲的に英語学習に取り組んでほしいと思います。  
(二年 英語担当)